

ようじえんだより 2016年度2月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

2月主題『信じて』

主題聖句：「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」
コリントの信徒への手紙Ⅱ4章18節

☆ 0～2歳児：たくさんの命が春を待っていることを知り、守ってくださる神様に感謝する。保育者や友だちと言葉のやり取りをして遊ぶことを楽しむ。異年齢の子どもたちに関心をもつ。全身を動かしたり、手や指を十分に使って遊ぶ。

☆ 3～5歳児：神様が寒さの中でも守られている命を知る。繰り返し取り組む中で、子どもなりの「なるほど」ということを見つけたり、コツをつかんだりする。友だちと共通のイメージを持ち、伝え合ったり、話し合ったりしながら遊びを作り出す。お互いの違いを認めつつ、助け合える喜びを感じる。

だんだんと先が見えてくる

1月は十日町もそれなりの積雪となり、全国ネットで放送もされ、私のもとにも知人から安否を問う電話やメールが毎日届きました。それなりに大変でしたが、むしろこの雪がいつまで降り続けるのかという不安が大きかったです。毎日の除雪作業で疲れがたまり、大雪3日目には体のあちこちが痛みはじめました。そんな時に、地域の方々から「短期間でこれくらい降られるとさすがにしんどい」と言われた言葉が私にとっては一番の慰めと希望になりました。「この降雪は雪国の人にとってもしんどいレベルなんだ」と分かったからです。何だか先が見えた気がしました。

雪国の恵み、それは…

雪国にとって雪は観光資源であり、除雪作業に従事している方々の収入源になります。ある程度の雪が降らなければ経済はまわらないことでしょう。でも初の越冬を通

して気づいたのは、「雪は平等に降る」という恵みです。雪で大変なのは、お金持ちの人も経済的に苦しい人も同じです。今は格差社会と言われ、同じ国や地域に住んでいても驚くほど生活レベルに差があると言われる。でも降雪はそこに住むすべての人に平等に降るのです。もちろんお金のある人は、除雪の大部分を業者の方々に依頼することはできるでしょう。しかし細かなところは自分でしなければなりませんし、何より、隣近所の人たちが「あの人はきちんと除雪をしているか」をみているでしょう（良くも悪くもそれが田舎であり、それは日本全国どこの田舎も一緒でしょう）。みんなが同じような困難を共有する中で、「絆」は生まれてきます。その困難が大きければ大きいほど、「絆」は深まります。今、世界中で「分断」がキーワードとなっている中で、雪が私たちに「絆」をくれているのです。

園長 久保田愛策

年間主題『平和をともに』

主題聖句：キリストはわたしたちの平和であります
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2章14節